

アユ

背側は青みがかったオリーブ色で腹側は銀白色で、大きくなると胸ビレの後ろ側に黄色の斑が現れます。産卵期になると、オスメスともに背側が黒ずみ、体の横の下方がオレンジ色を帯びます。そのアユが錆びたように見えるため、「さびあゆ」と言われます。

アユは海と川を行き来する魚類で、春先に成長するために川へ上り、秋になると川の下流に下り産卵し、孵化したアユは次の春まで海で過ごします。そのような魚類を「両側回遊魚(りょうそくかいゆうぎょ)」と言います。

小さな頃は動物プランクトンを食べますが、春先に上ってきたアユは主に石に付いた藻類をはみとって食べます。藻類を食べるため、スイカやキュウリのような匂いがします。

上ってきた河川中流域に入ると早瀬や平瀬などに「なわばり」を持つようになります。「なわばり」に他の魚類が入ると体当たりし、追い出そうとします。その習性を利用するのが「友釣り」です。



富士市での現状

ほぼ全ての河川の平野部で確認できました。

アユを確認したメッシュ

